株式会社KADOKAWA　第60期報告書 ▶2013年4月1日～2014年3月31日

vision

2014 夏号 VOLUME 38
http://www.kadokawa.co.jp/

**メガコンテンツ・パブリッシャーとして、
さらなる成長を目指す。**

新しい物語をつくろう。

KADOKAWA

Ranking 第4四半期（1月から3月）の主なヒット作品

シリーズ
1. 「カゲロウデイズ」シリーズ
2. 「艦隊これくしょん -艦これ-」関連書籍
3. 「魔法科高校の劣等生」シリーズ

一般書
1. モンスターハンター 4 公式ガイドブック
2. 学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話
3. F.S.S. DESIGNS 4　覇者の贈り物

文庫
1. ビブリア古書堂の事件手帖5 ～栞子さんと繋がりの時～
2. 輝天炎上
3. 確率捜査官 御子柴岳人 密室のゲーム

ライトノベル
1. カゲロウデイズV -the deceiving-
2. 新約 とある魔術の禁書目録（9）
3. アクセル・ワールド16 -白雪姫の微睡-

コミックス
1. 乙嫁語り 6巻
2. カゲロウデイズ 4
3. 艦隊これくしょん -艦これ-アンソロジーコミック 横須賀鎮守府編（3）

映像パッケージ
1. のんのんびより
2. グランド・イリュージョン
3. ハイスクールD×D NEW

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
定時株主総会の基準日	3月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話 0120-232-711（フリーダイヤル）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告 公告掲載URL　http://ir.kadokawa.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）
1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社KADOKAWAのホームページはIR・財務情報に加え、皆さまにKADOKAWAグループの事業内容をより深くご理解いただけるよう、グループ各社の最新情報や話題、事業展開などを満載しています。ぜひご覧くださいますようお願い申し上げます。

http://www.kadokawa.co.jp/

KADOKAWA | KADOKAWA CORPORATION
株式会社KADOKAWA
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話03-3238-8411

会長メッセージ

取締役会長
角川 歴彦
Tsuguhiko Kadokawa

ドワンゴとの経営統合によって、イノベーションを引き起こし、コンテンツ産業をリードしていきます。

先般の株主総会では、KADOKAWAとドワンゴの経営統合を、ご承認いただきありがとうございました。株主の皆さまには、両社経営陣の果敢な決断と新しい船出を是非祝福していただきたいとお願い申し上げます。

川上会長と私は以前から、近い将来同じ器の中で事業を発展させようという話をし、お互いの会社を見つめてきました。一方でKADOKAWAはワンカンパニーにならなければいけない、自らの統合もできないようであれば、ドワンゴと一緒になっていくこともできないと思っていました。ですから当社をワンカンパニー化することがSTEPで、ドワンゴとの一体化がJUMPだと理解していただければと思います。

KADOKAWAは出版社から出発して、映画、アニメ、ゲームとコンテンツを広げるなかで、メディアミックスの先駆者として大胆に事業展開を行なってきました。その幅を広げるなかで次はデジタルネット企業たらんと努力してきました。そしてこの度、ネット企業と一体になるという道筋を選択しました。

ドワンゴには、3,900万人の会員を持つニコニコ動画という日本を代表する動画配信のプラットフォームがあります。そして優れた技術者集団です。ドワンゴと当社は、補完する要素が大きいと思いますが、「単にコンテンツ会社のKADOKAWAとネット企業のドワンゴが合併するというのではありません」と川上会長は記者会見で言いました。ネットでコンテンツを作っている会社と、リアルの世界でコンテンツを作っている会社が新たなプラットフォームを作ることに挑戦の意義があるとはっきり言ったのです。

米国の例を見るまでもなく、コンテンツとネットワークのプラットフォームが収益の源泉であります。KADOKAWA事業本部とドワンゴ事業本部が時間をかけて融合していくのでは、結局ドワンゴという会社とKADOKAWAという会社が一つ屋根の下にあるということにとどまってしまいます。ですから、その真ん中に早急に新しい事業を立ち上げたいと考えました。

電子書籍をバーチャルの世界だけで伸ばしていくには、どこかで限界があります。現状では電子書籍コアユーザーの中でお客さまが回遊していますので、新規のユーザーを獲得する努力をしなければなりません。KADOKAWAには良い意味で既存の書店という大きな資産があります。このルートを活かしながら、さらにムビチケの会員およびdアニメストアの110万人の会員、ニコニコ動画の会員にも電子書籍のパイを広げていきたいと思います。それが、昨年から進めている「コンテンツのオムニチャネル」の意味だと思います。

改めてドワンゴという会社は、サブカルチャーそのものだと思っています。KADOKAWAの出版物の7割はサブカルチャーですから、両社がまったく異質な文化を持っているというのは間違った認識です。サブカルチャーとクールジャパンといったキーワードが、両社をつなぐ接着剤としての役割を果たすので、企業文化が一体になることに関して、まったく心配はしていません。これが本当に実現すれば、必ずイノベーションを引き起こします。新会社は21世紀の新しいメディアとなり、コンテンツ産業をリードしていくことを目指します。

私たちは「オープンな統合」を行ないます。ニコニコ動画がKADOKAWAと一緒になったからといってKADOKAWA以外のコンテンツを受け入れないことはないし、KADOKAWAがYouTubeなどと付き合っても何の問題もありません。この「オープンな統合」とは、KADOKAWAとドワンゴの連合軍は誰も囲い込んだり阻害したりせず、ユーザー本位にコンテンツを届けていくことを目指すということだと思います。

川上会長と佐藤社長のリーダーシップのもとでスタートする新会社に、是非、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

社長メッセージ

代表取締役社長
松原 眞樹
Masaki Matsubara

略 歴
1999年 当社入社
2010年 当社取締役財務統括室、IR・広報室、海外事業推進室統括マネジャー
2012年 当社常務取締役財務統括室、IR・広報室統括マネジャー
2013年 当社常務取締役経営統括本部長
2014年 4月 代表取締役社長に就任

大きく変化する事業環境に対応し、コンテンツ産業のリーディングカンパニー（次世代型）を目指す。

本年4月1日、KADOKAWAの代表取締役社長に就任した松原眞樹です。どうぞよろしくお願いします。

当社は、本年10月1日をもちましてドワンゴと経営統合を行なうこととし、第60回定時株主総会において、「株式移転計画承認の件」をお諮りし、ご承認を賜りました。株主の皆さまには、本計画の主旨についてご理解をいただき、まことに有難く厚く御礼申し上げます。

当社は新事業年度にあたり、新たな中期展望を打ち出し、今後の成長のための準備を整えてきました。ドワンゴとの経営統合は、当社が大きく変化していく事業環境に対応し、中期展望というミッションを追求していくうえでの「最良のパートナー」を得たということに尽きると思います。これから両社の経営資源を最大限活用することで、新規事業を推し進め、統合によるシナジー効果を実現することが最重要課題だと考えています。

当社は、出版業界において、経営状況においても業容の中身においても、今や業界のリーディングカンパニーになることができました。昨年10月には、連結子会社9社を吸収合併し、One Company化を果たし、デジタル時代にも対応できる強固な組織体制を構築しました。これからのエンターテインメント産業は、デジタル化も含め質も量も大きく変貌していきます。一方で、私たちは出版業界に大きな軸足を置いているため、リーディングカンパニーとなったKADOKAWAが出版業界で果たすべき役割は非常に大きいと思っています。今後も、業界の構造改革も含め、主導的な立場で、その役割を果たしていきたいと考えています。

イノベーションの進化は、コンテンツホルダーにとって大きなチャンスをもたらします。当社は、変動期を大きなチャンスと捉え、「コンテンツ産業のリーディングカンパニー（次世代型）を目指す」ということを中期展望のミッションとして掲げました。

あえて付した「次世代型」というキーワードには、5つのポイントがあります。①デジタルネイティブの時代に対応し、すべての事業ポートフォリオがデジタル化されていること。②必要な設備や人材、リスク管理などがデジタル化に対応していること。③全ての事業ポートフォリオにおいて、IPを中核として多様なコンテンツ創出と事業展開ができる「IP企業体」であること。④顧客IDを基軸としたマーケティングプラットフォームが構築されていること。⑤競合企業とも連携して、効率的な業界のプラットフォーム構築に貢献できること。

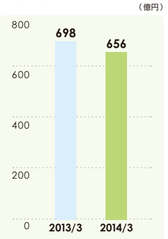
当社は、これらを実現することで、日本を代表するIP企業体として、かつ、相当量の顧客IDを保有、活用できる「コンテンツをベースとしたプラットフォーマー＝メガコンテンツ・パブリッシャー」となり、「コンテンツ産業のリーディングカンパニー（次世代型）」として、その地歩を確立することを目指していきます。

大きく変化していく事業環境のなか、これからも成長を続けるためのミッションを追求していくうえで、ドワンゴとの経営統合は、「最良のパートナー」と組むことで成長を加速・拡大してくれるものと確信しています。

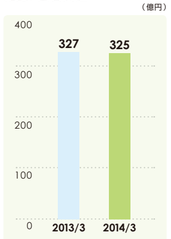
株主の皆さまにおかれましては、10月1日に経営統合を行なう（株）KADOKAWA・DWANGOに、今までと変わらない温かいご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

分野別売上高（通期）

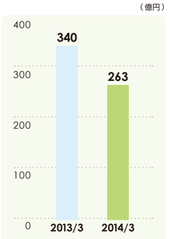
書籍関連



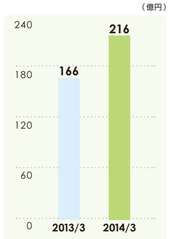
雑誌／広告関連



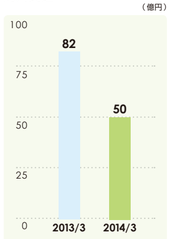
映像関連



ネット・デジタル関連



海外関連



書籍関連	ここ数年好調を持続していた文庫やコミックスにおける売上高の減少はあるものの、メディアミックス作品の展開や新規ジャンルへの進出を積極的に進め、概ね売上は堅調に推移しました。コミック雑誌市場が縮小するなか、当社コミック作品の底上げや次期主力作品の育成を進めるため、2014年3月にはWebコミックサービスの「ComicWalker」を開始しました。
雑誌／広告関連	雑誌広告収入が回復するとともに返品率の改善もあり収益性は回復しつつありますが、雑誌販売額の減少は続いています。引き続き固定費の削減や不採算部門の整理を進める一方、急速に普及しているスマートフォン向けの新サービスやネット広告ビジネスを拡大させ、事業構造の転換に向けた展開を加速させています。2014年1月には新たな企業タイアップ企画として、日本コカ・コーラ（株）協力のもと、スマートフォン向け無料週刊誌「週刊ジョージア」を創刊しました。
映像関連	シネコン事業の売却や配給映画のコストコントロールを徹底した結果、安定した収益性を確保できるようになりました。特にアニメ作品や固定ファンに支えられるジャンルムービーがDVD、Blu-rayの売上に貢献しています。
ネット・デジタル関連	BOOK☆WALKERを中心に積極的なキャンペーンを展開し、電子書籍の売上高をさらに伸ばしています。2013年10月1日に外部電子書籍ストアにもご協力いただき実施した「オールカドカワフェア」や、その後の年末年始にかけて行なわれた各電子書籍ストアのキャンペーンが功を奏し、電子書籍の売上高はさらに伸長を続け、新規顧客の開拓による市場の拡大も続いています。
海外関連	台湾で堅調に推移している出版事業に加え、アニメやグッズの事業展開も推し進め売上、利益の伸長を図っています。なお、当期中に香港の連結子会社を売却したことにより売上高が減少しましたが、関係会社株式売却益を特別利益に計上しました。

決算のご報告（通期） 連結財務諸表（要旨）

連結貸借対照表

単位：百万円

		第60期 2014年3月31日	第59期 2013年3月31日
資産の部	流動資産	91,088	83,262
	固定資産	65,016	56,636
	資産合計	156,105	139,898
負債の部	流動負債	35,980	35,270
	固定負債	9,193	17,082
	負債合計	45,173	52,353
純資産の部	株主資本	99,047	84,561
	その他	11,884	2,984
	純資産合計	110,931	87,545
	負債純資産合計	156,105	139,898

連結損益計算書

単位：百万円

	第60期 2013年4月1日～2014年3月31日	第59期 2012年4月1日～2013年3月31日
売上高	151,148	161,602
売上原価	109,813	119,793
売上総利益	41,334	41,809
販売費及び一般管理費	35,165	33,857
営業利益	6,169	7,951
営業外収益	1,268	942
営業外費用	99	232
経常利益	7,337	8,661
特別利益	3,972	130
特別損失	1,802	1,610
税金等調整前当期純利益	9,506	7,181
当期純利益	7,592	5,040

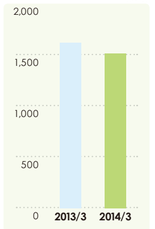
売上高、営業利益について

- 売上高は、書籍事業において収益率改善のための作品点数減などの影響や、映像事業においてシネコン事業の撤退、また、海外事業において第3四半期よりシネコン運営、映画配給などを行なっている香港現地法人売却による減収要因がありました。
- 営業利益は映像事業の貢献や雑誌事業の回復などで収益改善が着実に進捗していますが、書籍事業における売上高減の影響などもあり前期比で1,782百万円の減益となっています。

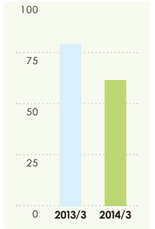
経営利益、当期純利益について

- (株)ドコモ・アニメストアはじめ持分法適用関連会社からの利益が貢献しました。また、海外子会社の株式売却益、有形固定資産売却益などにより特別利益が3,972百万円となりました。一方、固定資産除却損や投資有価証券評価損などにより特別損失が1,802百万円となりました。法人税等が1,285百万円、少数株主利益が629百万円となった結果、当期純利益は7,592百万円となりました。

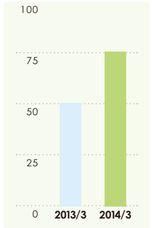
売上高（億円）



営業利益（億円）



当期純利益（億円）



会社役員

取締役会長	角川 歴彦
代表取締役社長	松原 眞樹
代表取締役専務	井上 伸一郎
専務取締役	関谷 幸一
常務取締役	谷口 常雄 濵村 弘一 安田 猛
取締役	佐藤 辰男（相談役）　渡辺 彰 椎名 保 （相談役）　秋山 伴道 髙野 潔　水島 真 塚本 進　横沢 隆 太田 修　山下 直久 芳原 世幸　川上 量生
社外取締役	船津 康次 森泉 知行 髙須 武男
常勤監査役	若林 陽 髙山 康明
社外監査役	渡邊 顕 神谷 英一

プレゼントのお知らせ

今回は、「マンガ大賞2014」大賞作品「乙嫁語り」と2位入賞作品「僕だけがいない街」の各第1巻をセットにし、抽選で20名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、「株主通信Vision」の感想や経営に関するご質問とともに、お名前、ご住所、お電話番号をご記入のうえ、ご応募ください。

『乙嫁語り』第1巻
エンターブレインBC
著者：森薫

『僕だけがいない街』第1巻
角川書店BC
著者：三部けい

「マンガ大賞 2014」
大賞作品「乙嫁語り」
2位入賞作品「僕だけがいない街」
各第1巻をセットで **20名様**

●あて先 〒102-8177 東京都千代田区富士見 2-13-3 株式会社 KADOKAWA IR・広報部「プレゼント」係 ●応募締切り 2014年7月31日（木）（消印有効）

※発表は発送をもって代えさせていただきます。なお、取得した個人情報は当選者の方に商品を発送するためだけに使用し、他の目的では使用いたしません。

ドワンゴとの経営統合について

当社とドワンゴは、2014年5月14日、共同株式移転により両社の完全親会社となる（株）KADOKAWA・DWANGO（統合持株会社）を設立する方法により、経営統合することについて合意しました。また、6月21日開催の当社定時株主総会および7月3日開催のドワンゴ臨時株主総会において、株主の皆さまよりご承認を賜りました。今後は、10月1日を効力発生日（予定）として、統合持株会社を設立いたします。

デジタル化とインターネット技術が進展するなかで、ドワンゴの有するテクノロジーおよびネットITプラットフォームと、KADOKAWAの有するコンテンツおよびリアルプラットフォームを融合させ、ネット時代の新たなビジネスモデルとなる「世界に類のないコンテンツプラットフォーム」を確立することを目指します。

また、中期的には「進化したメガコンテンツ・パブリッシャー」として、ネット時代の新たなメディアを築いてまいります。

2014年5月14日の経営統合発表の記者会見
左から、当社松原社長、角川会長、佐藤取締役相談役、
ドワンゴ川上会長、荒木社長

▼ 経営資源の融合とシナジー

▼ 株式移転にかかる割当てについて

株式移転比率	KADOKAWA	ドワンゴ
→	1.168	1

当社の普通株式1株に対して統合持株会社の普通株式 1.168株を、ドワンゴの普通株式1株に対して統合持株会社の普通株式1株をそれぞれ割当て、交付します。ただし、上記株式移転比率は、算定の基礎となる諸条件に重大な変更が生じた場合は、両社協議の上、変更することがあります。

▼ 経営統合の日程

2014年5月14日	両社　取締役会決議 両社　統合契約の締結および共同株式移転計画書の作成
2014年6月21日	KADOKAWA　定時株主総会
2014年7月 3日	ドワンゴ　臨時株主総会
2014年9月26日（予定）	両社　上場廃止日
2014年10月1日（予定）	統合持株会社設立登記日（効力発生日） 統合持株会社の上場日

▼ 統合持株会社の概要

商号	株式会社KADOKAWA・DWANGO
資本金	200億円
決算期	3月末日
本店所在地	東京都千代田区
役員体制	代表取締役会長　川上 量生 代表取締役社長　佐藤 辰男 取締役相談役　角川 歴彦 取締役　荒木 隆司 取締役　松原 眞樹 取締役　濵村 弘一 取締役　夏野 剛 取締役　小松 百合弥 取締役（社外）　船津 康次 取締役（社外）　星野 康二 取締役（社外）　麻生 巌 監査役（常勤）　髙山 康明 監査役（常勤）　初本 正彦 監査役（非常勤）　渡邊 顕 監査役（非常勤）　鈴木 祐一

TOPICS

「ダ・ヴィンチ電子ナビ」リニューアル、「ダ・ヴィンチNEWS」に

1月29日に「ダ・ヴィンチ電子ナビ」が「ダ・ヴィンチNEWS」にリニューアルしました。

サイトを訪問いただいたお客さまに、少しでも多くの記事を読んでもらうためにデザインも一新。TOPICS欄や記事ランキングなど、ニュースサイトとしての読みやすさを向上させました。今後もネタになる記事、ためになる記事を作っていきます。

ダ・ヴィンチ NEWS
http://ddnavi.com/

シリーズ累計550万部突破！『ビブリア古書堂の事件手帖』最新第5巻、大好評発売中

実在の名作が登場し、読み終えた後にまた本が読みたくなると大人気のビブリオミステリー『ビブリア古書堂の事件手帖』（メディアワークス文庫刊）から、1月24日、最新第5巻『ビブリア古書堂の事件手帖5～栞子さんと繋がりの時～』が発売となりました。第5巻までの累計発行部数は550万部にのぼり、日販やオリコンの週間ランキングでも、発売後すぐに文庫部門1位を獲得しています。第5巻では、「彷書月刊」、「ブラック・ジャック」（著：手塚治虫）、「われに五月を」（著：寺山修司）などを取り上げ、それぞれの古書に隠された登場人物の思いや秘密をめぐって物語が展開していきます。老若男女誰もが楽しめる知的＆胸キュンなミステリー『ビブリア古書堂の事件手帖』最新刊を、ぜひ手に取ってみてください。

『ビブリア古書堂の事件手帖5 ～栞子さんと繋がりの時～』
著：三上 延　定価：本体570円＋税

「新書大賞2014」発表！大賞に藻谷浩介/NHK広島取材班著の『里山資本主義―日本経済は「安心の原理」で動く―』

1年間に刊行されたすべての新書から、その年最高の一冊を選ぶ「新書大賞2014」（中央公論新社主催）の受賞作が発表され、全国有力書店の新書に造詣の深い書店員、各社新書の編集長らが投票した結果、藻谷浩介/NHK広島取材班著の『里山資本主義―日本経済は「安心の原理」で動く―』が大賞に輝きました。

NHK広島にて放送された同名の番組の放送をベースに、ベストセラー『デフレの正体―経済は「人口の波」で動く』著者が書き下ろした本書。昨年7月に発売されて以来、マネー資本主義の限界を何となく感じている日本人の不安と不満を解消し、新たな豊かさを提供する、生き方の常識を変える一冊として注目されています。話題の作品をぜひこの機会にお読みください。

インドアエンタメ総合誌「オトナファミ」、「エンタミクス」へ誌名変更！

「オトナファミ」は3月20日発売号から、「エンタミクス」に誌名変更しました。

「エンタミクス」は、欧文でentermixと表記する造語です。「日本唯一のインドアエンタメ総合誌」というコンセプト、第二次ベビーブーム世代の男女＆ファミリーというターゲットはそのままに、多様なジャンルの良質なエンターテインメントへの入口を創り、新たな楽しみ方を提案・発信する、読むこと自体が楽しい「ハマれるメディア」へと発展させていきます。第1号では、「相棒」と「名探偵コナン」の奇跡のコラボ表紙を実現。特集は「カジュアルフードランキング」、「春ドラマ＆アニメ新番組完全ガイド」、「女子がハマった男子漫画ランキング」などスペシャル企画を10本以上用意しました。さらに完全オリジナル付録「全面マイクロファイバーポーチ」付き。KADOKAWAが作り上げてきたメディアミックス文化をさらなる未来へ飛躍させる「エンタミクス」は、毎月20日発売です。

「テルマエ・ロマエ」と楽しむ！関西 スパ銭＆日帰り温泉Walker

映画『テルマエ・ロマエⅡ』と強力コラボした関西のスーパー銭湯＆日帰り温泉の最新ガイド本が発売となりました。2014年もスパ銭・日帰り温泉新施設オープンラッシュが続き、新施設を最新最速で大特集しています。さらに、2013年10月26日にリニューアルの「大江戸温泉物語 箕面温泉スパーガーデン」など、昨年オープンしたばかりの7大人気スパ銭を徹底攻略しています。ほか、城崎温泉、有馬温泉、白浜温泉、鞍馬温泉など、関西の有名温泉地への日帰りドライブ、再注目されるレトロな銭湯などの特集も満載し、温泉がさらに楽しめる『テルマエ・ロマエ』と学ぶ温泉豆知識や阿部寛＆上戸彩のインタビューも掲載しています。入浴料が100円になる「100円スパ銭」など超お得な割引クーポンが約90枚付いています！

「マンガ大賞2014」、「乙嫁語り」が大賞、「僕だけがいない街」が2位に入賞！

マンガ好きの著名人、書店員が選定する「マンガ大賞2014」にて、KADOKAWAの作品が3作品最終ノミネートに進出。そして、今回エンターブレインBCの『乙嫁語り』（著：森薫）が大賞を受賞！ 第2位に角川書店BCの『僕だけがいない街』（著：三部けい）が入賞し、KADOKAWAのワンツーフィニッシュとなりました（もう一つのノミネート作品『坂本ですが？』は10位に入賞）。

このニュースを受けて4月より各書店では「マンガ大賞」の告知を打った大々的な販売展開を実施しています。また宣伝でも東京・大阪・名古屋にて、電鉄を中心としたビジュアル広告展開、KADOKAWA内の自社広告展開を実施しました。今後とも上記作品へのご支援を何卒よろしくお願いします。

全世界100万本突破記念！『LOLLIPOP CHAINSAW』春のキャンペーン実施

角川ゲームス初のオリジナルタイトルPlayStation®3 / Xbox 360®『LOLLIPOP CHAINSAW（ロリポップチェーンソー）』の累計販売本数（パッケージ版出荷本数とDL版配信本数の合計）が全世界で100万本を突破しました。これを記念して、3月20日から4月30日までの期間限定でPlayStation®3/Xbox 360®ダウンロード版が通常価格の約1/3になるスペシャルディスカウントと、スペシャルグッズプレゼントの豪華2本立てとなる「全世界100万本突破記念！『LOLLIPOP CHAINSAW』春のキャンペーン」を実施しました。これからも、優良なオリジナルタイトルを生み出していきます。

名作探訪 最終回 国家的出版事業「角川日本地名大辞典」（全47巻 別巻2巻）

角川書店創業者、角川源義の遺志を継ぐ追悼出版として編纂活動が始まった「角川日本地名大辞典」。第1回目の配本となる「東京都」が刊行されたのは、角川源義3度目の命日となる1978年10月27日のことでした。そこから年4巻のペースで都道府県ごとに巻数を重ね、全47巻と別巻2巻で完結したのは1990年12月、実に12年間を費やした創業以来の大事業となりました。

「角川日本地名大辞典」は都道府県別に1巻（北海道と京都府は上下2冊で1巻）で、それぞれ、歴史を解説した＜総説＞、古代・中世から現代に至る地名を立項し解説する＜地名編＞、全市町村通史と現行行政地名を立項した＜地誌編＞、さらに参考文献や分布図などの＜資料編＞の4部で構成されています。収録記事は各巻およそ400字詰原稿用紙で1万枚を超え、日本の地名に関する文献としては過去にも、現在においても匹敵する出版物は見当たりません。完結の翌年には第45回毎日出版文化賞の特別賞も受賞しました。

高額商品で過去に例のない商品となった「角川日本地名大辞典」の刊行には、営業部の販売促進も大きな支えとなりました。刊行半年前から準備を始め、各都道府県の担当者が取次店、地元書店の方と密接に連携しながら、1冊ずつの事前注文を直接読者の方から集めていく、外販といわれる方法で販売部数を積み上げていったのです。こうした地域密着型の販売促進が、その後の営業活動に大きく貢献することになったと、営業現場の声が社史にも残されています。

2014年6月、ネット・デジタル事業で新たな成長を期すKADOKAWAの新規事業として「Walker47」のサービスが開始されました。地域密着の情報をどこよりもきめ細かく、様々なコンテンツとともに提供するサービスが、「角川日本地名大辞典」完結から四半世紀を経て始まります。地域の方と密接に繋がり、地元の方に愛されるサービスの創造は、「角川日本地名大辞典」の編纂や販売に努力した当社諸先輩たちの想いに繋がっていくのかもしれません。

現在もプリント・オン・デマンドで購入いただくことが可能です。
http://www.kadokawagakugei.com/ondemand/list-c.php